

BOOK REVIEW

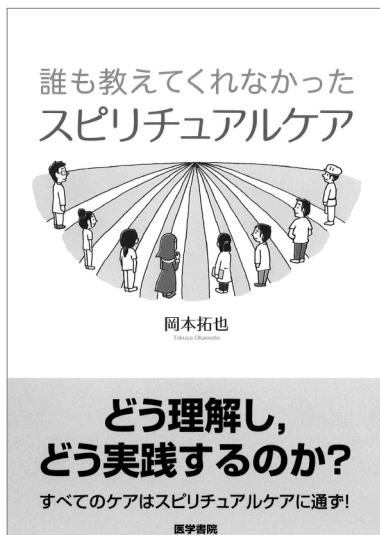
誰も教えてくれなかった

スピリチュアルケア

岡本拓也 著

本体2500円＋税

医学書院 ☎03-3817-5657



今から6年前、緩和ケア認定看護師を
めざしていたときに、授業に何度も登場
したのが「トータルペイン」、さらにその
一構成要素であるという「スピリチュア
ルペイン」という言葉だった。

基礎看護学生時代は、患者さんの痛み
は「身体的」「精神的」「心理社会的」と
いう3つの側面で見ると教わり、そう
理解していたものだから、「信仰をもつ
人が少ない日本でなぜスピリチュア
ル？」というのが素朴な疑問だった。

幸い、翌年に認定看護師を取得でき、
表面的にはスピリチュアルペインも理解
したつもりだった。病院や緩和ケア病棟
に比べ、在宅ではスピリチュアルペイン
に直面する機会が少なく、正直あいまい

でも困らないと考えていた。

スピリチュアル概念の構造がわかる

それが本書を読むことにより、考え方
が明らかに変わった。ここには「トータ
ルペイン」の図は登場せず、そもそも「ス
ピリチュアリティ」とは何か、というこ
とが丁寧に解説されている。とりわけ、
おそらく著者の経験に基づくと思われる
図「スピリチュアル概念の相互関係」が、
今までスピリチュアルなセンスをもって
いなかった私のガイドラインとなった。

正直なところ、一度読んだだけではよ
く理解できなかった。そこで2回目は
「相互関係」の図の構成要素に従い、序章
↓第2章（全体構造）↓第5章（スピリ
チュアリティ）↓第3章（スピリチュア
ルな経験）↓第4章（スピリチュアルな
経験の意味）↓第6章（スピリチュアル
ペイン）↓第1章（スピリチュアルケア）
↓第7章（まとめ）と読んでみた。

すると、マラソンのゴールの瞬間のよ
うにすっきりした心地よい疲労感を覚え
た。このように読むことで、自分のスピ
リチュアリティをも認知できたのではな
いかと思っている。

人に接するあらゆる専門職に向けて

本書によると、そもそも人は誰でもス
ピリチュアリティを備え持つ存在である。
人は、この世に生を受けたときから、さま
ざまなスピリチュアルな経験をしている。
平穏な日常生活においては、それを自覚
せずとも幸せに生活できるが、病気や人
生の節目となる大きな出来事に遭遇する
と、その経験が時にスピリチュアルペイン
となり、葛藤のなかで人として成長を続
ける。その経過や回復過程で他者の助け
を必要とすればスピリチュアルケアの対
象となるし、自己解決できることもある。

私たちのように、職業上スピリチュア
ルなケアを提供する者は、今後すべての
領域において、この概念を学ぶことを必
須要件としてもよいのではないか。対象
者のスピリチュアリティを理解しケアを
実践できるまでには、時間と努力を要す
る。また、人生経験が少ない援助者の場
合、時に対象者が援助者を支援する存在
になるかもしれない。

それこそがスピリチュアリティが相互
関係に基づく所以であり、そのケアを生
業とする者の醍醐味である。人に接する
時間に幸福を感じるあらゆる専門職にお
勧めしたい。